

# 令和 6 年度東北大学施設見学及び視察報告

技術第 1 班 木村 英人 佐藤 真人

技術第 2 班 鈴木 大介

技術第 3 班 志村 良一郎

## 1. 目的

本視察は東北大学の学内研究施設や設備環境の視察を目的に訪問した。また、技術職員を中心とした運営方法や管理体制について情報交換を行い、本校へフィードバックすることで今後の支援センターの運営体制構築への足掛かりとする。

## 2. 視察期間及び日程

2025 年 3 月 18 日 (火)

東北大学 片平キャンパス

(宮城県仙台市青葉区片平二丁目 1-1)

<1 日目> 9 月 18 日 (水)

9:00- 顔合わせおよび説明

日野 正也 技術職員

相馬 出 総括技術専門員

9:15- 装置設備見学①

担当者：田代 公則 技術職員

組成分析システム(電界放出型電子プローブマイクロアナライザ (FE-EPMA)) をはじめとする共通分析機器を見学

(産学連携先端材料研究開発センター)

10:30- 装置設備見学②

担当者：海原 大輔 技術職員

クライオ電子顕微鏡および

関連設備を見学

(多元物質科学研究所内ソフトマテリアル研究センター)

13:30- 2 班に分かれて機械工場及びガラス工場を見学

A 班 木村・佐藤：機械工場

B 班 鈴木・志村：ガラス工場

14:50- 意見交換・懇談

15:20- 視察終了

## 3. 視察を行って

午前中はキャンパス内の各研究施設にある装置設備の見学を行った。最新鋭の環境設備を有しているだけでなく、その維持管理に技術職員が大きく関わっている点が特徴的であった。装置予算の確保から使用料の徴収など円滑な装置運営が可能な仕組みが確立されており、本校にも適用出来る点が多くあるのではと感じた。

午後は 2 班に分かれて見学・研修を行った。機械工場では高専と異なり実習等での教育的利用は少ないが、加工依頼や受注生産を受けることが多いなどの相違点があった。加工費の徴収など工夫することで円滑な工場運営が成されていた。ガラス加工工場では、全体的な設備説明とガラスの加工体験を実施していただいた。特注ガラス機器の設計・試作から、量産的

なサンプルの提供まで幅広い業務内容であった。本校では簡易なガラス加工以外が現状不可能であるため、今後の技術職員スキルのひとつとしてガラス加工技術の必要性を感じた。本校での技術・設備導入の際には我々技術職員の積極的な参加が出来るよう計画的な人材育成を行わなければならない。

#### 4. おわりに

東北大学の取り組みや研究設備等を実際に見聞することで、本校との違いを実感でき、今後の参考になることが多々あった。また業務の専門さや多様さなど高専技術職員とは異なる技術職員像に大きな刺激を受けた。本視察で得られた知見を自身の教育・研究活動に活かせるように努めていきたい。

視察を行うにあたり、年度末の多忙な時期に関わらずご対応いただきました東北大学のご担当者の皆様に心から感謝を申し上げます。



視察風景（午前：装置設備見学② クライオ電子顕微鏡）



視察風景（午後：機械工場 ロボドリル）



視察風景（午前：装置設備見学①）



視察風景（午後：ガラス加工工場）